

単元	指導内容	評価規準
ガイダンス	美術室について、年間に制作する作品の紹介	
「デッサン」	① デッサン基礎として、えんぴつの特徴を学び、グラデーションを作る。 ② 手が描かれた名画を選び、描く手のポーズを考える。自分の手を数枚スケッチしてデッサンの構想を練る。 ③ 光の方向と細部にこだわって、手をデッサンする	(態度) 鉛筆の種類や表現の幅に興味をもって制作している。 (思・表) 美しいと思う手のポーズを考え、光の方向を考えた表現ができています。 (知・技) 立体的に細部まで表現している。 (態度) 参考の作品の良さを感じ取り、作品に取り込もうとしている。
「風景画 いつか私の心象 風景」	① 風景画の作品を鑑賞し、風景画の基本と雰囲気をつかむ。 ② いつか心象風景になる、今印象的な風景はなにか考え、構想を練る。 ③ アイデアスケッチやタブレットで写真を撮って材料を集め、構想をまとめる方法を知る。 ④ 本制作は夏課題。	(思・表) 風景の意図が伝わる構成になっている。 (知・技) モチーフを正確にスケッチしている。美しく着色できている。 (知・技) 奥行のある構成を考え、風景が魅力的に見える工夫をしている。 (態度) 積極的に制作し、細部まで充実した表現をしている。
「自分のくつ」 スケッチ 塑像制作	① 塑像を中心とした立体彫刻の鑑賞。 ② 自分の靴を多方向からスケッチし、形を立体的にとらえる。 ③ 紙粘土の特徴と使い方を学び、スケッチをもとに靴らしい形と細部にまでこだわりを持って作る。 ⑤ 乾燥させた作品に絵の具で着色、ニスを塗って完成させる。 ⑥ 作品鑑賞会、振り返り。	(態度) 積極的に制作している。準備片付けを適切に行い。制服を汚さないような工夫をしている。 (思・表) 普段使っているクツの特徴を掴み、愛着を持って作品を制作することができる。クツらしい形に気づき、再現できている。 (知・技) 粘土の正しい使い方を理解し、美しい作品に仕上げることができる。 (態度) 自他の作品の良さを感じとろうとしている。
「彫刻史」	古代ギリシャから現代彫刻までの彫刻の歴史を学び、成り立ちを理解する。	(知・技) 歴史の流れと作品の特徴を知り、理解と関心を深める。
「ピクトグラム」 「マークのデザイン」	① ピクトグラムの歴史と、身近なマークについて学び、関心を深める。 ② 身近なマークを発見し、プリントにまとめる。 ③ 自分自身を表すものがなにか考え、1色で形が分かるように工夫してマークのアイデアを練る。 ④ スケッチブックの表紙に配置し、絵の具で着色する。	(態度) マークのデザインに関心をもち、日常にあるマークを発見できる。道具の準備片付けが適切に行える。 (思・表) 自分自身を由来としたマークを発想できる。 (知・技) マークの色や形を工夫し見やすく仕上げることができる。 (知・技) 自他の作品の良さを感じとろうとしている。自分が発見したマークをプリントにまとめ、紹介できる。 (態度) 積極的に制作している。
「アニメーション ゾートロープ」	① 残像現象などアニメーションの基本的な仕組みを学ぶ。 ② ゾートロープに差し込む、10コマまたは12コマのアニメーションを作成する。 ③ 作品鑑賞後、振り返り。	(態度) アニメーションに関心を持ち積極的に制作しようとしている。 (思・表) 動きの基本を理解し、工夫し発想することができる。 (知・技) 絵を生きて見えるように連続した絵を描くことができる。 (知・技) 自他の作品の良さを感じとろうとしている。

参考図書

「教科書、美術2・3、上・下」

副教材「美術資料 東京の美術」他